

1. 需給見通し

農林水産省は、「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」(昭和40年法律第109号)により、四半期ごとに砂糖および異性化糖の需給見通しを公表している。令和3年9月に「令和3砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し(第1回)」を公表した(詳細は2021年11月号参照)。

令和3砂糖年度(10月～翌9月)の見通し

【砂糖】

総消費量：177万5000トン(前年度比1.2%増)

総供給量：176万8000トン(同2.4%減)

【加糖調製品】

消費量および供給量：45万6000トン(前年度同)

【異性化糖】

消費量および供給量：81万1000トン(前年度比7.0%増)

表1 令和3砂糖年度における砂糖の需給見通し

(単位：千トン)

		令和2砂糖年度 (実績見込み)	令和3砂糖年度				合計	
			10月-12月	1月-3月	4月-6月	7月-9月		
消費量	分みつ糖	1,719	463.8	408.8	433.4	434.0	1,740	
	含みつ糖	35	7.3	11.6	9.3	7.1	35	
	合計	1,754	471.1	420.4	442.7	441.1	1,775	
供給量	国内産糖	分みつ糖	769	362.4	360.3	44.1	-	767
		含みつ糖	10	1.1	7.7	1.4	-	10
		小計	779	363.5	368.0	45.5	-	777
	輸入糖	分みつ糖	1,025	248.0	162.0	292.9	280.4	983
		含みつ糖	8	1.7	3.4	2.1	0.9	8
		小計	1,033	249.7	165.4	295.0	281.3	991
	合計	分みつ糖	1,794	610.4	522.3	337.0	280.4	1,750
		含みつ糖	18	2.8	11.1	3.5	0.9	18
		小計	1,812	613.2	533.4	340.5	281.3	1,768
期末在庫		404	546.1	659.1	556.9	397.1	397	

資料：農林水産省「令和3砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し(第1回)」

注1：分みつ糖は精糖ベースの数量、含みつ糖は製品ベースの数量である。

注2：輸入糖の分みつ糖供給量は、機構売買数量である。

表2 令和3砂糖年度における加糖調製品の需給見通し

(単位：千トン)

	令和2砂糖年度 (実績見込み)	令和3砂糖年度				合計
		10月-12月	1月-3月	4月-6月	7月-9月	
消費量	456	111.8	116.9	115.4	111.9	456
供給量	456	111.8	116.9	115.4	111.9	456

資料：農林水産省「令和3砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し(第1回)」

注1：改正糖価調整法(平成30年施行)に基づき調整金の対象とされた加糖調製品を対象としている。

注2：消費量は対象となる加糖調製品の輸入量(財務省貿易統計より算出)を踏まえて見通しており、供給量は消費量に見合った量が供給されるものとして見通している。

注3：令和3砂糖年度の消費量は、令和2砂糖年度および令和元砂糖年度の輸入実績を踏まえて見通している。

表3 令和3砂糖年度における異性化糖の需給見通し

(単位：千トン)

	令和2砂糖年度 (実績見込み)	令和3砂糖年度				合計
		10月-12月	1月-3月	4月-6月	7月-9月	
消費量	758	177.0	184.3	234.2	215.4	811
供給量	758	177.0	184.3	234.2	215.4	811

資料：農林水産省「令和3砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

注：標準異性化糖（果糖55%ものの固形ベース）に換算した数量である。

2. てん菜の生産見込み

作付面積は前年産からわずかに増加したものの、生産量はわずかに下回る見込み

北海道農政部生産振興局農産振興課は、令和3年10月20日に「令和3年産てん菜の生産見込数量（令和3年8月20日現在）」を公表した。

令和3年産の作付面積は、5万7509ヘクタール（前年産比1.3%増）と、前年産に比べて760ヘクタール増加した（表4）。地域別に見ると、十勝地域が2万5343ヘクタール（同2.3%増）、オホーツク地域が2万3267ヘクタール（同0.5%増）、道央地域が4468ヘクタール（同0.7%増）、道南地域が4430ヘクタール（同1.0%増）とすべての地域で前年産を上回った。

令和3年産の1ヘクタール当たりの収量は、生育期に高温と少雨による干ばつ傾向で推移する地域が見られたことから、67.7トン（同1.7%減）と、過去最高であった元年産の収量（70.7トン）を下回

る見込みである。しかしながら、その後は、まとまった降雨があり、病害虫の発生も少なかったため、例年の平均単収^(注)（63.7トン）を引き続き上回る見込みである。なお、3年産のてん菜生産量は389万2000トン（同0.5%減）を見込んでいる。

また、糖分は、てん菜が糖分を蓄える登熟期である9月中旬に十勝地方およびオホーツク地方の一部地域で集中的な降雨が見られたことなどから、令和2年産（16.4%）と比べ、現在のところ同水準かやや低下する見込みである。

製糖工場では、例年通り10月上旬ごろから操業を開始したが、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に細心の注意を払いながらの操業となり、安定稼働に向けて各工場が独自で感染症対策を実施するなど徹底した生産管理体制を整えている。

(注) 直近7カ年（令和2年〈2020年〉～平成26年〈2014年〉）の1ヘクタール当たりの収量のうち最高、最低を除く5カ年分の平均。

表4 令和3年産てん菜の生産見込み

	令和2年産 (実績)	令和3年産 (見込み)	対前年比 (増減比)
作付面積 (ha)	56,749	57,509	1.3%
十勝地域	24,773	25,343	2.3%
オホーツク地域	23,151	23,267	0.5%
道央地域	4,439	4,468	0.7%
道南地域	4,386	4,430	1.0%
ha当たり収量(トン/ha)	68.9	67.7	▲1.7%
生産量 (トン)	3,912,401	3,892,000	▲0.5%

資料：北海道農政部生産振興局農産振興課「令和3年（2021年）産てん菜の生産見込数量」

注：各地域を管轄する振興局は次の通りである。

十勝地域：十勝

オホーツク地域：オホーツク、釧路、根室

道央地域：空知、上川、留萌、宗谷

道南地域：石狩、後志、胆振、日高、渡島、檜山

3. 輸入動向

【粗糖の輸入動向】

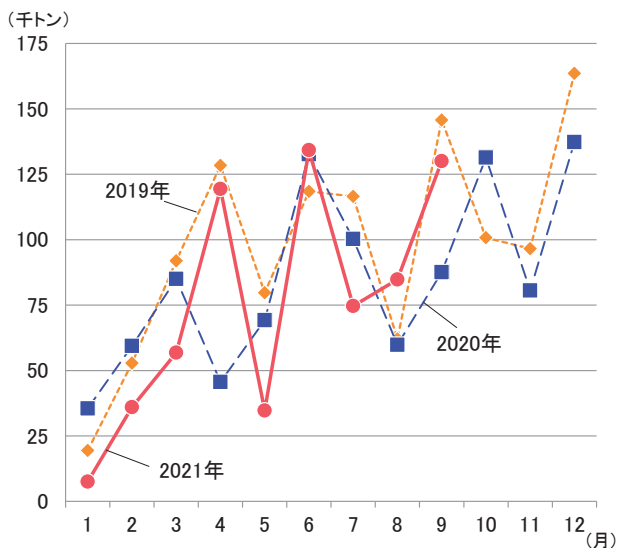
9月の輸入量は前年同月から大幅に増加

財務省「貿易統計」によると、2021年9月の甘しや糖・分みつ糖（HSコード 1701.14-110）および甘しや糖・その他（同1701.14-200の豪州）の輸入量は、13万15トン（前年同月比48.5%増、前月比53.3%増）であった（図1）。

輸入先国は甘しや糖・分みつ糖についてはタイ、甘しや糖・その他については豪州で、国別の輸入量は次の通りであった（図2）。

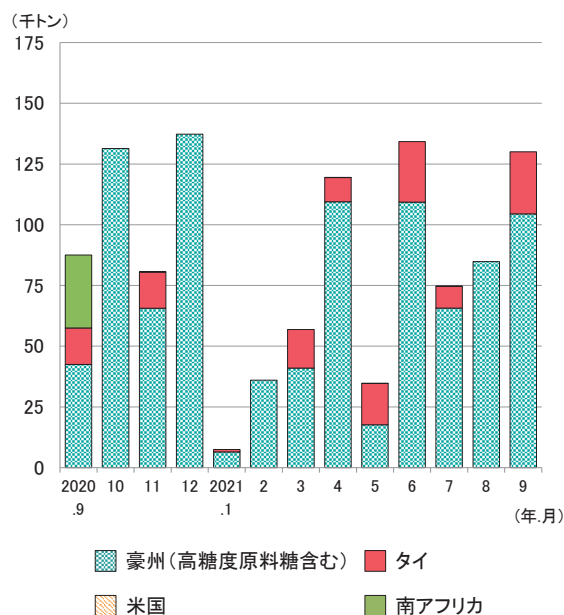
タイ	2万5524トン
（前年同月比70.2%増、前月輸入実績なし）	
豪州	10万4491トン
（同2.5倍、前月比23.2%増）	

図1 粗糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）

図2 粗糖の国別輸入量の推移



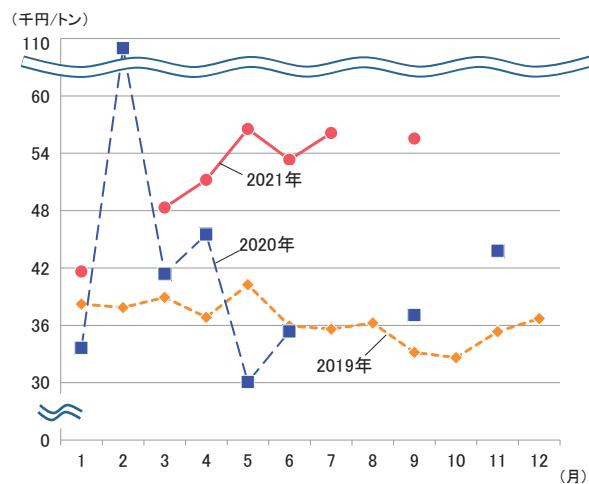
資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）

2021年9月の甘しや糖・分みつ糖の1トン当たりの輸入価格は、5万5533円（前年同月比49.8%高、前月輸入実績なし）であった（図3）。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

タイ	5万5533円
（前年同月比32.2%高、前月輸入実績なし）	

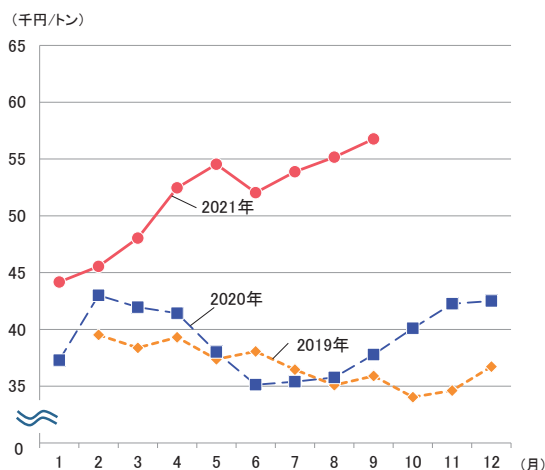
図3 粗糖(HSコード1701.14-110)の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：2020年7月、8月、10月、12月、2021年2月および8月は輸入実績なし。

また、同月における甘しや糖・その他の豪州からの高糖度原料糖の1トン当たりの輸入価格は、5万6762円（前年同月比50.2%高、前月比2.9%高）であった（図4）。

図4 高糖度原料糖（HSコード1701.14-200の豪州）の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：2019年1月は輸入実績なし。

【含みつ糖の輸入動向】

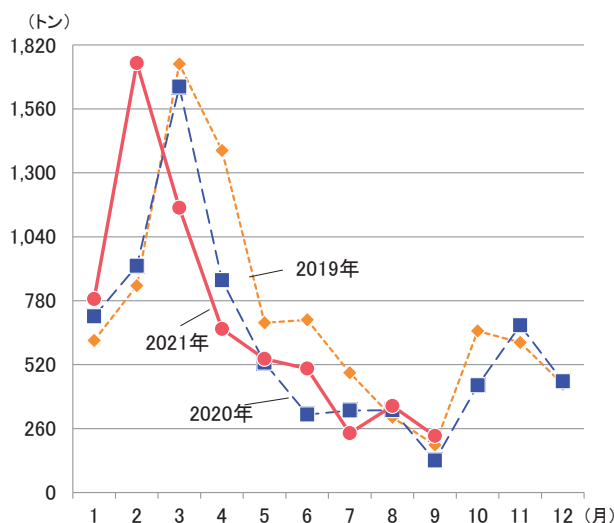
9月の輸入量は前年同月から大幅に増加

財務省「貿易統計」によると、2021年9月の含みつ糖(HSコード1701.13-000、1701.14-190)の輸入量は、230トン（前年同月比76.9%増、前月比34.7%減）であった（図5）。

輸入先国は中国、フィリピン、コスタリカ、インドおよびパキスタンの5カ国で、国別の輸入量は次の通りであった（図6）。

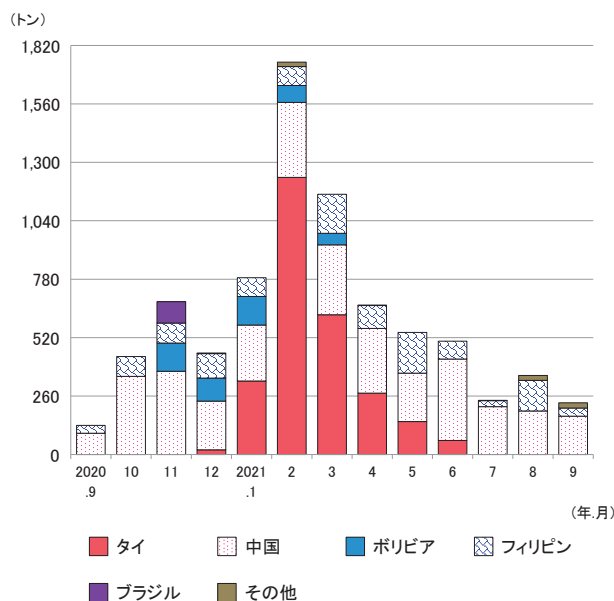
中国	171トン
（前年同月比80.0%増、前月比11.9%減）	
フィリピン	36トン
（同2.9%増、同73.5%減）	
コスタリカ	20トン
（前年同月および前月輸入実績なし）	
インド	2トン
（前年同月輸入実績なし、前月同）	
パキスタン	1トン
（前年同月および前月輸入実績なし）	

図5 含みつ糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

図6 含みつ糖の国別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

2021年9月の1トン当たりの輸入価格は、15万1213円（前年同月比17.1%高、前月比20.0%高）であった（図7）。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

中国	12万9906円
（前年同月比7.6%高、前月比4.8%高）	
フィリピン	22万3111円

(同46.6%高、同72.4%高)

コスタリカ 18万5500円

(前年同月および前月輸入実績なし)

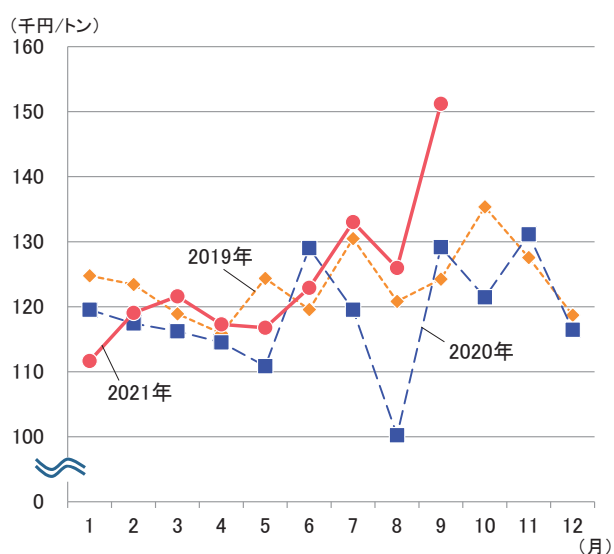
インド 26万9000円

(前年同月輸入実績なし、前月比19.1%安)

パキスタン 38万4000円

(前年同月および前月輸入実績なし)

図7 含みつ糖の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

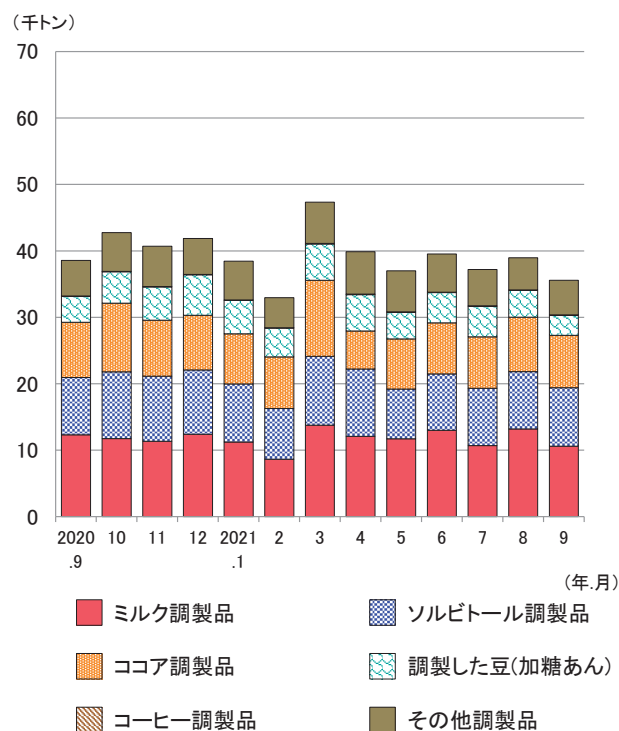
【加糖調製品の輸入動向】

9月の加糖調製品の輸入量は前年同月からかなりの程度減少

財務省「貿易統計」によると、2021年9月の加糖調製品の輸入量は、3万5574トン（前年同月比7.7%減、前月比8.7%減）であった（図8）。

品目別の輸入量は、表5の通りであった。

図8 加糖調製品の品目別輸入数量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：各品目のHSコードは、次の通り。
ココア調製品：1806.10-110、1806.10-190、1806.20-112、1806.20-113、1806.20-121、1806.20-129、1806.32-212、1806.32-213、1806.90-212、1806.90-213
コーヒー調製品：2101.11-110、2101.11-190、2101.12-111、2101.12-112、2101.12-246
調製した豆（加糖あん）：2005.40-191、2005.40-199、2005.51-191、2005.51-199
ミルク調製品：1901.90-219、2106.90-283、2106.90-284
ソルビトール調製品：2106.90-510
その他調製品：2008.99.218、2106.90-590、2101.20-246、2106.90-252、2106.90-253、2106.90-281、2106.90-282、2106.10-219

表5 加糖調製品品目別輸入量（9月）

(単位：トン)

区分	輸入量	前年同月比 (増減比)	前月比 (増減比)
ミルク調製品	10,617	▲ 13.7%	▲ 19.6%
ソルビトール調製品	8,795	1.8%	2.0%
ココア調製品	7,867	▲ 5.5%	▲ 4.0%
調製した豆(加糖あん)	3,051	▲ 22.2%	▲ 24.8%
コーヒー調製品	44	28.1%	▲ 31.2%
その他調製品	5,199	▲ 2.6%	7.7%
合計	35,574	▲ 7.7%	▲ 8.7%

資料：財務省「貿易統計」
注：端数処理の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

4. 異性化糖の移出動向

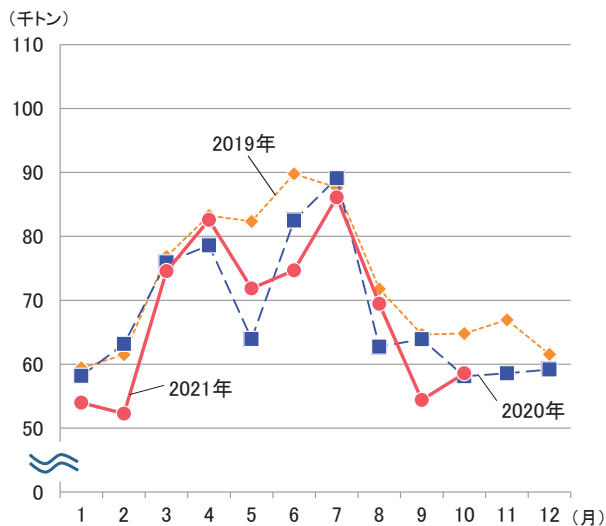
10月の移出量は前年同月からわずかに増加

2021年10月の異性化糖の移出量は、5万8557トン（前年同月比0.8%増、前月比7.6%増）であった（図9）。

同月の規格別の移出量は、次の通りであった（図10）。

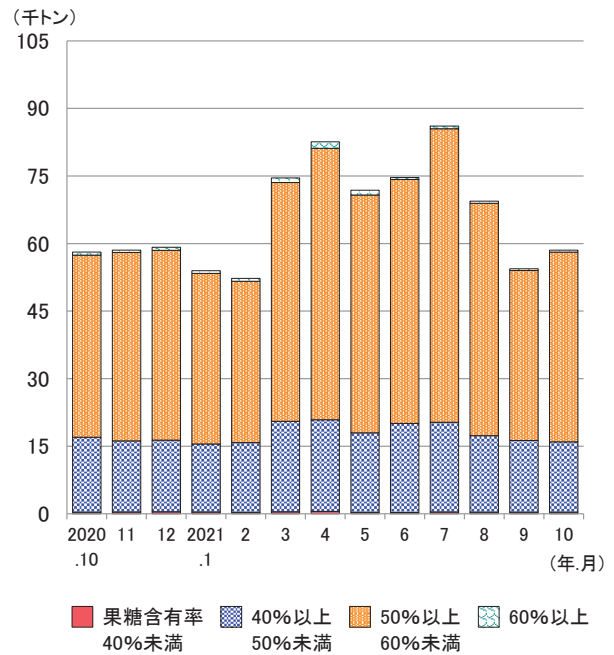
果糖含有率40%未満	359トン
（前年同月比6.1%減、前月比2.5%減）	
同40%以上50%未満	1万5626トン
（同5.9%減、同1.7%減）	
同50%以上60%未満	4万2139トン
（同4.2%増、同11.5%増）	
同60%以上	433トン
（同36.6%減、同20.2%増）	

図9 異性化糖の移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図10 異性化糖の種類別移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

5. 価格動向

【市場価格】

砂糖、異性化糖ともに前月と同水準で推移

10月の糖種別・地域別の砂糖価格（日経相場）は、次の通りであった。

上白糖（大袋）

東京	1キログラム当たり198～199円
大阪	同198～199円
名古屋	同202円
関門	同202円

上白糖（小袋）

東京	1キログラム当たり210～213円
大阪	同213円

本グラニュー糖（大袋）

東京	1キログラム当たり203～204円
大阪	同203～204円
名古屋	同207円

ビート・グラニュー糖（大袋）

東京 1キログラム当たり198～199円
 大阪 同198～199円
 名古屋 同200円

10月の異性化糖の価格（日経相場、大口需要家向け価格、東京、タンクローリーもの、JAS規格品、水分25%）は、次の通りであった。

果糖分42%もの
 1キログラム当たり141～147円
 果糖分55%もの 同147～153円

【小売価格】

10月の上白糖小袋の地域間の価格差は最大で36.1円

KSP-POSデータ(全国535店舗)によると、スーパーにおける10月の上白糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、198.1円（前年同月差5.8円高、前月差3.9円高）であった。最も高かったのは中国・四国で、最も安かった関東などとの価格差は36.1円であった。

同月の地域別^(注)の平均小売価格は、次の通りであった（表6）。

(注) 地域の内訳は、次の通りである（以下同じ）。

関東など：茨城県、栃木県、群馬県、長野県、山梨県、静岡県
 首都圏：東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県
 中部：新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、三重県、愛知県
 関西：大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、和歌山県、奈良県

表6 上白糖の地域別平均小売価格（10月）

(単位：円/kg)

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	210.9	12.7	8.7
東北	211.1	14.6	2.4
関東など	181.6	2.7	2.3
首都圏	193.1	▲ 2.1	7.5
中部	186.4	4.1	4.2
関西	196.3	1.5	2.8
中国・四国	217.7	15.7	0.9
九州・沖縄	190.8	1.3	1.4
全平均	198.1	5.8	3.9

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ〈全国535店舗〉）

10月のグラニュー糖小袋の地域間の価格差は最大で74.9円

KSP-POSデータ(全国535店舗)によると、スーパーにおける10月のグラニュー糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、251.8円（前年同月差7.7円高、前月差3.7円高）であった。最も高かったのは東北で、最も安かった北海道との価格差は74.9円であった。

同月の地域別の平均小売価格は、次の通りであった（表7）。

表7 グラニュー糖の地域別平均小売価格（10月）

(単位：円/kg)

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	215.4	13.0	11.1
東北	290.3	14.5	1.4
関東など	255.9	5.4	5.8
首都圏	263.6	9.2	2.2
中部	255.8	4.4	1.9
関西	239.7	6.3	3.9
中国・四国	266.1	8.1	3.3
九州・沖縄	221.8	6.8	4.4
全平均	251.8	7.7	3.7

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ〈全国535店舗〉）

10月の三温糖小袋の地域間の価格差は最大で60.5円

KSP-POSデータ(全国535店舗)によると、スーパーにおける10月の三温糖小袋(1キログラム)の平均小売価格は、235.6円(前年同月差7.4円高、前月差1.6円高)であった。最も高かったのは東北で、最も安かった九州・沖縄との価格差は60.5円であった。

同月の地域別の平均小売価格は、次の通りであった(表8)。

表8 三温糖の地域別平均小売価格(10月)

(単位:円/kg)

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	235.6	9.5	0.5
東北	265.9	12.9	▲3.7
関東など	219.0	5.3	2.4
首都圏	224.0	4.2	1.1
中部	235.1	6.6	3.2
関西	235.9	6.3	4.1
中国・四国	256.6	5.7	1.3
九州・沖縄	205.4	7.7	2.1
全平均	235.6	7.4	1.6

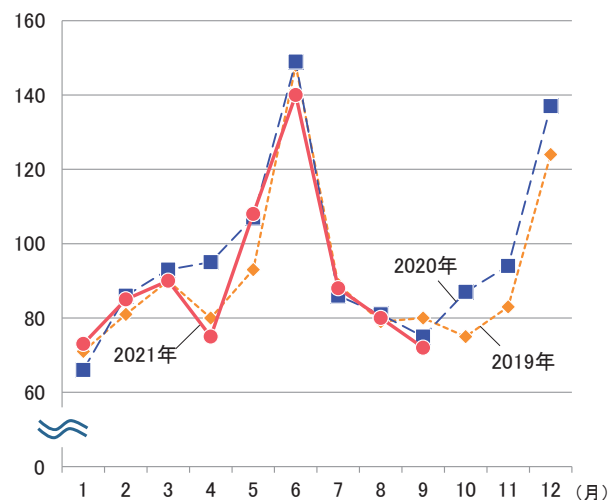
資料:農畜産業振興機構調べ(原典:KSP-POSデータ(全国535店舗))

【購入金額および購入量】

9月の砂糖の支出金額は前年同月からわずかに上昇

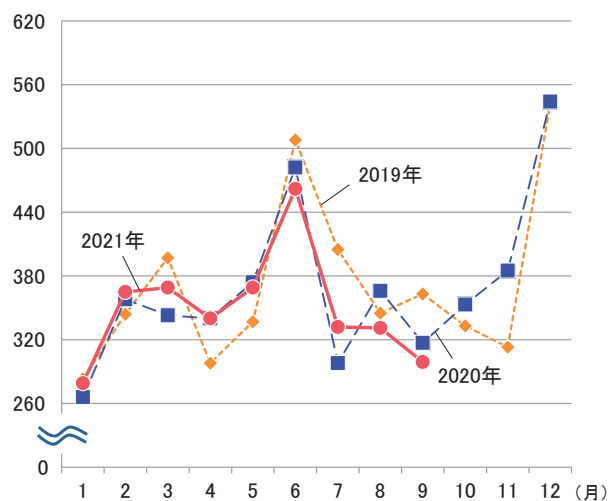
総務省「家計調査」によると、2021年9月における100世帯当たりの砂糖の購入頻度は30、1世帯(2人以上)当たりの支出金額は72円(前年同月比4.0%安、前月比10.0%安)であった(図11)。また、同月の1世帯当たりの砂糖の購入数量は、299グラム(同5.7%減、同9.7%減)であった(図12)。

図11 1世帯当たりの砂糖に係る支出額の推移(円)



資料:総務省「家計調査」

図12 1世帯当たりの砂糖の購入数量の推移(グラム)



資料:総務省「家計調査」